



あの時、アイツの声が聞こえていれば...

声の形

こえのかたち

本作について

道徳の授業の教科化に伴い、如何にして子ども達を「心の豊かな人間」に育てるか様々な議論がなされております。

原作の「声の形(こえのかたち)」(講談社)は、現代の子ども達のリアルな表情を描きつつ、「いじめ」や「障がい者との共生」などの難しいテーマを、読者が自然に考える事のできる優れた物語であり、人権意識を常に高く持っているといないと、周囲の人間を傷つける可能性がある事を教えてくれます。

本作は原作の物語を基本に、教材としてのテーマを付加したドラマ形式の学習教材です。

「いじめ」や「障がい」に対する意識と知識を高め、学校や家庭内で話し合うきっかけとしてお役立て下さい。

授業で使いやすい

学習指導案
ワークシート 付き

上映時間:30分 [C# 0650]

DVD 66,000円(税抜)

字幕版付き

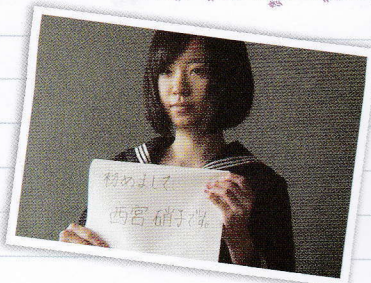


私はこのノートを通じて皆さんと仲良くなりたいです。



あらすじ

しょうや しょうこ ドラマ
将也と硝子の物語を通じて描く、「いじめ」そして「障がい者との共生」

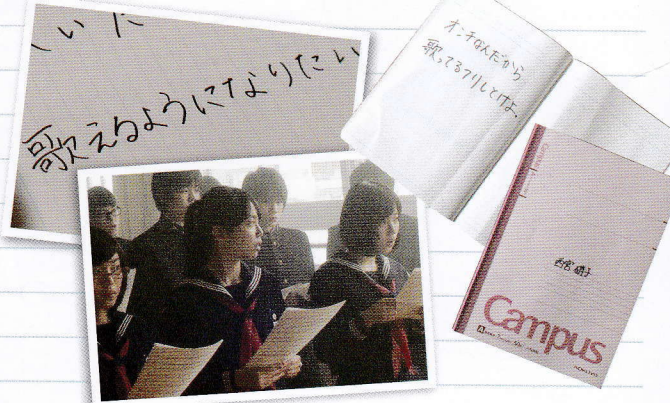


1 転校してきた少女

石田将也のクラスに転校してきた西宮硝子は聴覚障がい者だが、筆談ノートで皆に積極的に語りかける。当初は好意的に硝子を受け入れていたクラスだったが、硝子が原因で授業が止まったり、筆談ノートの煩わしさに徐々にストレスを感じていく。

2 合唱祭

学校の名物行事である合唱祭が近づいていた。練習に励むクラスの中でも、発声が苦手な硝子は目立ってしまう。将也に口パクを強要された硝子を見かねた合唱部の佐原は、硝子に問いかける。「歌いたい？歌いたくない？」



3 いじめの始まり

クラスが合唱祭の入賞を逃したことで、硝子はいじめの標的になってしまう。

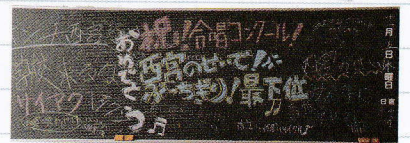
黒板や机に悪口を書かれたり、体育の時間にボールをぶつけられたり。

「西宮っていじめられてもいつも笑ってるよな？」

「聞こえてないから平気なんじゃね？」

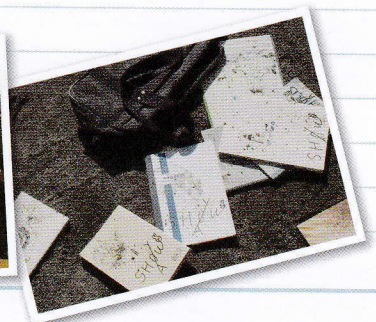
徐々にエスカレートするいじめ。

そんなある日、最悪の事件が起こる。



4 学級裁判

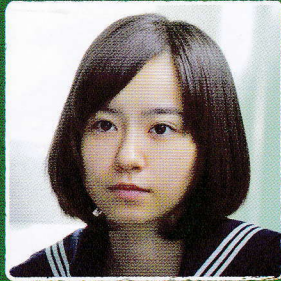
硝子の怪我の原因を追究する学級会が行われるが、クラスメイト達は、全ての原因を将也になすりつけようとする。周囲の裏切りに愕然とする将也だったが、これが新たないじめの標的となる日々の始まりだった。



人物相関図



▶ **西宮硝子**
(ニシミヤ ショウコ)
聴覚障がい者の転校生。
クラスに溶け込もうと努力
するが、いじめの標的に
なってしまう。



いじめてしまう



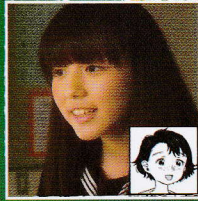
◀ **石田将也**
(イシダ ショウヤ)
クラスの人気者。硝子を
いじているつもりが結果
的にいじめてしまう。

いじめる

いじめから
助けようとする

元々は仲良かったが
いじめる

いじめを
傍観してしまう



▲ **植野・川井**
最初は硝子に対して優しくしていたクラスの
女子たち。しかし、合唱祭以降いじめがエスカ
レートしていく。

▲ **佐原**
合唱部員。
いじめられる硝子を手
助けしようとするが…

▲ **島田・広瀬**
将也と仲良し三人組。学級裁判以降、将也を
いじめの対象とする。

▲ **クラスメイトたち**
硝子に対するいじめを傍
観したり、笑って参加し
たりしている。

5 硝子の転校

「西宮はいじめられていた時、何を思ってたんだろう…」

辛い自らの境遇と硝子を重ねる将也。

そんな時に硝子が現れ、傷ついた将也にハンカチを差し出し笑みを浮かべるが、
将也は激しく反発する。

「卑怯なんだよ、お前は！一度でも腹の底にある気持ち言ったことあんのかよ！」

激しく詰め寄る将也に、自らの気持ちをその“声”で初めて伝える硝子。

それからしばらくして、硝子は転校してしまう。

6 残されたノート

ある日、将也は自らが投げ捨てた硝子の筆談ノートを見つける。

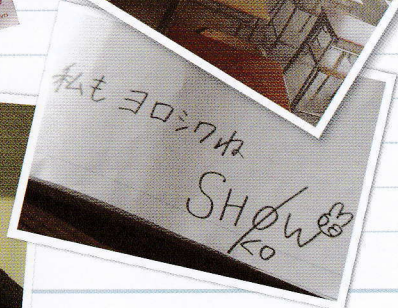
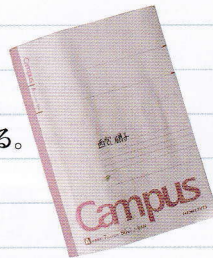
誰もいなくなった教室で一人、ノートを見返す将也。

そこには誰も気に留めなかった硝子の“声”が溢れていた。

「あの時、アイツの声が聞こえていれば。

いやアイツの声を聞こうとしていれば…」

将也の頬に一筋の涙が伝う…



【学習のねらい】

- ドラマ内で描かれる
“いじめのメカニズム”を知る。
- いじめに悩む人の気持ちを想像し、
いじめを防ぐ方法や**加害者に対して**
どういう行動が取れるのかを考える。
- **障がいのある友人との接し方**
について考える。

【収録資料】

**本DVDは、授業でお使い頂きやすい様に、
以下の資料をデータ収録しています!!**

● 学習指導案

本DVDを利用した50分授業の学習のねらいや目標、指導展開案など

● ワークシート案

学習指導案に則った構成で、生徒の意見を引き出しやすい設問案

作成協力:岡崎市立葵中学校

【原作について】

「いじめとは何か?」「障がいと向き合うとは?」

そんな難しいテーマに、少年誌にも拘らず正面からぶつかり、爽やかな物語へと巧みに昇華した原作「**聲の形**」は週刊少年マガジンにて連載し、2014年に完結。(単行本全7巻)連載終了後も、「このマンガがすごい!」オトコ編 第1位に選ばれるなど多くの読者の心を打ち続けている。



▲コミック第1巻



▲本DVDパッケージ

©大今良時/講談社

【監修に寄せて】

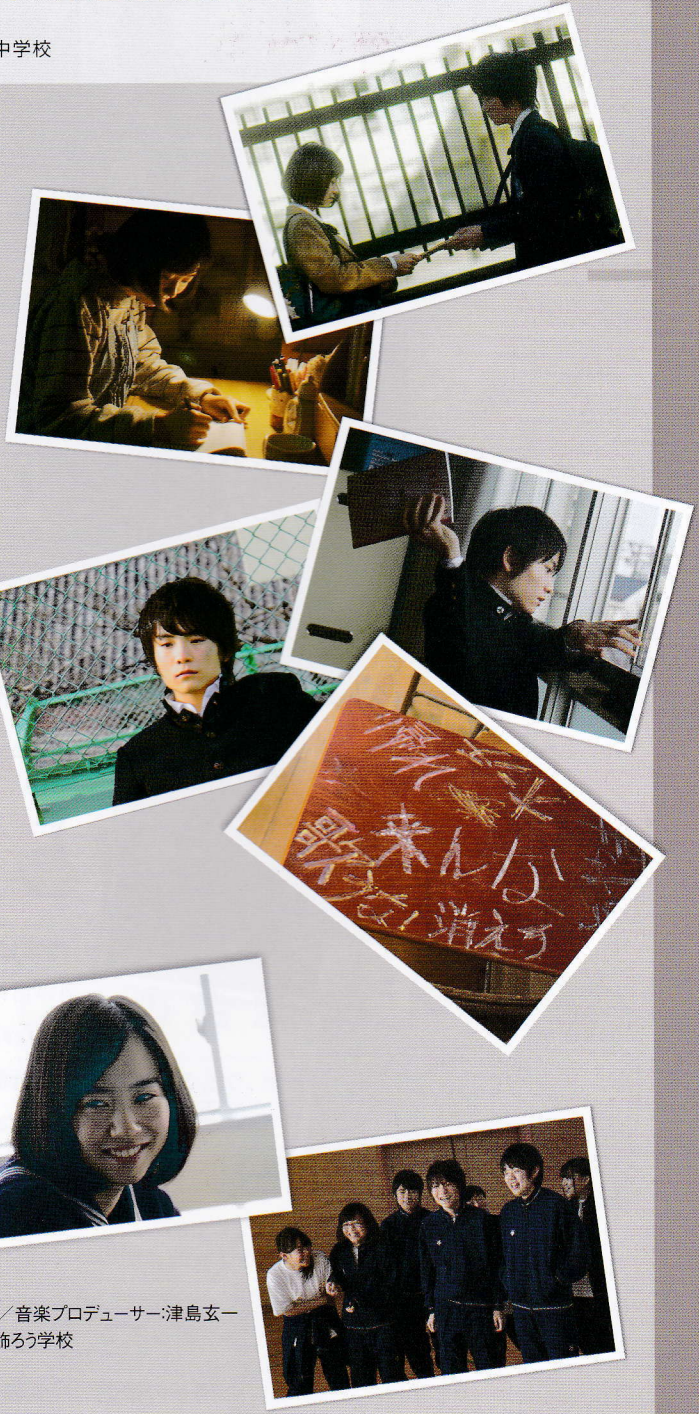
一般財団法人 全日本ろうあ連盟

もし教室に耳の聞こえない生徒がいたら…、
先生の声、クラスメイトの声が届かない生徒が。

DVD「**聲の形**」は耳の聞こえない硝子を取り巻く学校生活の現実を率直に描いていると思います。聞こえない生徒に皆の声を届け、自らのメッセージを伝えられる方法のひとつに手話があります。手話は目で見て手や表情などで伝える言語です。今、小学校や中学校で聞こえない人や手話への理解を広める取り組みが広がっています。皆が手話を学び、聞こえない生徒も生き生きとコミュニケーションができる社会となることを願ってやみません。

先生や生徒たちが硝子へ自分たちのメッセージを伝え、硝子のメッセージをどう受け止めるか、そのコミュニケーション方法も含めて一人ひとりが考えてほしいと思います。

監督:高橋浩 / 脚本:松島恵利子 / プロデューサー:岡部圭一郎 / キャスティングプロデューサー:福岡康裕 / 音楽プロデューサー:津島玄一
音楽:加藤亜祐美 / ラインプロデューサー:石川貴博 / 演技指導:手話あいらんど / 取材協力:東京都立葛飾ろう学校
原作:大今良時「**聲の形**」(講談社「週刊少年マガジン」連載) / 制作プロダクション:東映東京撮影所
製作:東映株式会社 教育映像部 ©大今良時/講談社 2015年度作品



予告編配信中!

教育映像

検索

<http://www.toei.co.jp/edu/>



東映株式会社 教育映像部

<http://www.toei.co.jp/edu/>

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631
関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区橋本町5-2 〒730-0015 ☎082-511-2066
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

お買上げは

北辰映像株式会社

〒350-0461 埼玉県入間郡毛呂山町中央 3-32-3
TEL:049-298-5792 FAX:049-298-5793
E-mail: co@hokushineizo.com